

【発行者】新潟農業普及指導センター
新津庁舎：0250-24-9624、津川分室：0254-92-0965

単収 200kg 以上、2等級以上を目指して

湿害・干ばつ対策の徹底と適期防除で 収量・品質向上

1 生育及び作業状況

○概ね適期に耕起・播種作業が実施されたが、一部ほ場で少雨による発芽不良が発生した。6月23日の降雨以降、生育が回復した。

2 排水・湿害対策

○7月上～中旬にかけて梅雨の豪雨が予想されるため、浸水被害対策や湿害対策を徹底する

- 明渠に「つまり」や「くずれ」がないか確認し、確実に排水路に繋げる。
- 畝間を明渠に繋げる。
- 暗渠栓、水尻を開放したままにする。

○湿害による葉の黄化や生育不良の症状が見られた場合、排水対策を徹底した後、速効性肥料を窒素成分で2～3kg/10a追肥し、培土する。

3 干ばつ防止対策

○3か月予報では8月に高温が予想されているため、干ばつが予想される場合は、梅雨明け後は暗渠を占め地下水位を維持する。

(1) 暗渠栓の管理

- 排水の良いほ場では、梅雨明け後に暗渠栓を閉め、地下水位を維持する。
- まとまった降雨があった場合は、速やかに暗渠栓を開け、排水に努める。

(2) 畝間かん水の実施（条件：排水の良い圃場※1日以内に地表水を排水できる）

○畝間かん水の目安

- 高温・少雨で晴天が2週間以上続いた場合
- 最頂葉の小葉が直立し（図）、ほ場全体で葉の裏面が目立ってきた場合

○夕方からかん水し、ほ場全体に行き渡ったらすぐに排水する。

○大区画ほ場は数日に分けてかん水する（水口付近の湿害防止）。



図 かん水のめやす(直立した小葉)

4 雑草対策

○降雨の影響で中耕・培土が遅れる又はできない場合は、雑草対策を優先し生育期処理除草剤を適正に使用する。

- 全面散布できる茎葉処理除草剤（イネ科用除草剤、広葉用除草剤がある）
- 畦間散布用の非選択制の茎葉処理除草剤（大豆にかけないように注意！）
- 畦間・株間散布用の茎葉兼土壌処理除草剤

○中耕・培土は、開花始期（7月20日頃）までに終わる（生育抑制・落花・落莢防止）。

○帰化アサガオ類が発生している場合は、除草の徹底と被害拡大防止に努める。除草剤散布、中耕・培土を実施しても雑草が残った場合は、早めに手取り除草する。



生長



帰化アサガオ類は、つるが発生する前に、除草しましょう。

5 病害虫防除——葉焼病、ウコンノメイガ、紫斑病、マメシンクイガ

(1) 葉焼病

○里のほほえみで開花期頃（7月下旬頃）に発生が確認されたら防除する。

(2) ウコンノメイガ(ハマキムシ)

○播種期の早いほ場、葉色の濃いほ場で発生しやすい。

○7月下旬に1株平均2つ以上の「葉巻」が確認されると、防除が必要となる。

「葉巻」の発生初期（7月下旬～8月上旬頃）に早めに防除する。

(3) 紫斑病

○防除効果の高い開花期4週間後頃に防除する。薬剤散布を複数回実施する場合は、開花期3週間後頃または5週間後頃に追加で散布する。

(4) マメシンクイガ

○連作ほ場や前年に多発したほ場で発生しやすい。

○例年多発生しているほ場では、防除効果の高い8月下旬と9月上旬の2回、莢に薬剤がよく付着するよう留意し防除を実施する。

農薬の使用にあたっては、ラベルに記載されている使用基準や注意事項・使用方法をよく読み、内容を遵守して使用しましょう。周辺への飛散に注意！！